

D 57 女子大学生の被服色彩嗜好の季節的要因 (1978年～1991年)

榎 隆 東 女子短大 ○ 家 永 晶 子

大 手 前 女子短大 浦 畑 育 生

目的 女子短大生が大学の被服構成実習で製作したブラウスの検討に引き続いて、今回はスカートに選んだ布地の色彩嗜好に季節的要因が作用しているかどうか検討してみた。

方法 調査試料は、学生が被服構成実習で製作したスカートに選んだ布地(約800件)を使用した。各年ごと及び季節ごとに分類して、前報(日本家政学会関西支部発表平成3年10月)と同様に測色値を求めた。その数値に基づいて、夏、冬スカートの明度の比較及び経年変化、刺激純度比較及び経年変化、各年毎の色度図色相分布を求めた。

結果 全体的にみて、女子大学生のスカートの色彩嗜好には年毎の大きな変化はあまり見られず、季節的要因が作用している。概略的に次のようにまとめられる。①  $L^*$

(明度)でみると、一般に夏スカートは高明度型で、冬スカートは低明度型の傾向があるが、詳細に分類すれば夏スカートは高明度型、中明度型、低明度型の3グループに分かれる年と、高明度型、低明度型の2グループに分かれる年とがある。冬スカートでは低明度のグループだけが目立ち、中、高明度のグループは殆ど見あたらない。②  $Pe^*$

(刺激純度)でみると、明度に比べて夏、冬の違いは少ない。低い刺激純度のものは、夏スカートの方が冬スカートより多く見られる。高い刺激純度の範囲では、逆に冬スカートの方が夏スカートより多く見られる。夏スカートは、白っぽくて熱反射の効率のよい涼感のある淡色が好まれ、ベージュ、クリーム、サックスブルー、ネービーブルーが見られる。逆に冬スカートは黒っぽくて保温性があり、温かみのある暖色が好まれ、えんじ、赤、茄子紺、鉄紺などが多く好まれている。